

初めての定期考査

1年生にとっては初めての定期考査である中間考査が本日より行われました。通常は、中間考査では国・数・英・理・社の5教科それぞれ50分間のテストが行われ、期末考査では5教科にプラスして、音・美・体・技家の4教科それぞれ30分間のテストがプラスされ9教科で行われます。今回の1学期中間考査は、4月に授業が始まってからまだ間がないことから、5教科30分間のテストになります。縮小版ではありましたが、緊張感のあるテストを受けたのが初めてだったという人も多かったのではないのでしょうか。



事前の取組状況を計画表で確認すると、十分に時間を取れている人もいれば、なかなか家庭学習の時間が取れていない人もいます。学習方法には様々なものがあります。各教科で紹介されていると思いますが、自分に合うやり方は人それぞれです。ですが、まずはやることです。よく、「勉強のやり方がわからない」という人がいますが、多くの場合、やり方の問題ではなく、**そもそも絶対量が足りていない**ということがほとんどです。合う合わないはそれから先の話だと思います。問題集に取り組む、教科書を何十回も読む、ノートをまとめなおして覚える、漢字や単語を何十回も書いて覚えるなど、できることはたくさんあるはずです。今のうちに様々な方法を試してみると、3年生になった頃には自分なりの学習方法が確立しているはずです。

また、**テストは実は終わった後の方が大切**です。結果が出て「よかった」「残念」だけで終わってしまってははいけません。そもそも試験問題は、各教科の先生が、「この範囲ではこれが大切」と思っているところが出題されています。試験後は間違えたところを何度もやり直し、「もう一度受けたら絶対満点が取れる」という所まで復習しておく、その範囲の学習内容が身についたと言えます。逆にこれをせずにはできなかったところをできないままにしておく、3年生になったときにもう一度一からやり直しということになってしまいます。解き直しを習慣にして、一つ一つを確実に身につけていきましょう。

学問に王道なし

次は運動会だ！

令和3年度 前期専門委員

すでに委員会活動が始まり、先日、学級討議も終わりました。各委員は、それぞれの分野のリーダーになります。例えば、保健給食委員は、給食の間、クラスの配膳や片づけが滞りなく行われているかを常に確認し、問題があれば改善策を考え実行しなければなりませんし、図書委員は当番活動だけではなく、どうしたらクラスみんなにより多く本に接する機会を作れるかなどを考えなくてはなりません。いずれにしても、中学生は与えられた仕事をこなすだけではなく、その分野に責任をもち、自分たちで考えて行動することが求められます。これはクラスの教科係も同じです。単なる持ち物の連絡係ではなく、係はその授業のリーダーになります。班長は掃除終了後の号令係ではなく、自分たちの班に与えられた当番活動がきちんと行われているかを確認し、最後まで見届けなくてはなりませんし、班の特定の誰かに負担がかかっていないかを常に気にしていなければなりません。「主体的に考え行動する」、これが自立への第一歩です。全員が何らかの形でリーダーになれることが理想です。